

課題番号 : 26指201
研究課題名 : 「研究開発の推進及び評価」に関する研究
主任研究者名 : 石坂幸人
分担研究者名 : 無し.
キーワード : 若手支援、臨床研究、国際医療研究委託費、小規模研究

研究成果

背景: 当センターの研究開発力の底上げを図るため、若手研究者および、若手医師の臨床研究を支援することを目的とした。以前、国際医療研究委託費で支援していた小規模研究に代わるシステムとして、英語論文作成や国際学会参加を支援し、所内の臨床研究の活性化を図るとともに、臨床研究に関する論文の輩出に貢献する。

研究協力者として、複数の医師、国際医療協力部長、看護部長、看護大学校長が参加し、all-NCGM体制で、支援申請課題に対する妥当性を評価し、その結果をもとに支援の可否を決定する。国際学会参加支援については、初年度は15万円程度、平成27年度は約25万円とした。最終年度では、さらに臨床研究を活性化するため、医学研究セミナーの一環として「国際学会参加報告会」を設け、この報告会で学会参加報告を行う場合には、全額支援することにした。

方法: 主なる若手支援として、英語論文作成、英語論文作成のためのレクチャー、国際学会参加、統計解析用PCのセットアップとユーザー管理の4つを柱とした。平成28年度では、これらに加えて、臨床研究の英文プロトコルの作成についても全面的に支援した。平成28年度では、和文からの英文翻訳についても支援対象とした。

支援希望者から提出された申請書(文末に添付)と論文・学会抄録の内容について、以下に示す研究協力者による審査を行った。

<研究協力者名>

センター病院: 矢野 哲
三森明夫 → 考藤 達哉 (平成27年度)
窪田和雄 (平成26年度まで)

ACC: 瀧永博之

薬剤部: 和泉啓司郎 → 栞原 健 (平成27年度)

国際医療研究局: 三好知明

臨床研究センター: 溝上哲也
田中紀子

研究所: 湯尾 明

国府台病院: 柳内秀勝

看護大学校長: 田村やよひ → 井上 智子 (平成27年度)

看護部長: 木村弘江

論文作成支援: 初年度に引き続き、主に、若手研究者が作成したドラフトの英文校正を支援した。一方、論文の別刷代金やオープンアクセス経費については、支援対象と

しなかった。同時に支援を受ける論文数は3件までとし、1件が受理されれば、新たに1件、支援申請を行うシステムとした。

これまで、支援する臨床研究の倫理審査について注意してこなかったが、留意する必要性が研究協力者から指摘された。そこで、次年度から、支援申請の際、倫理委員会で承認されたことを示す倫理委員会承認通知書コピーを提出書類に添えるシステムにする方針とした。

結果：

1. 英語論文作成支援

平成26年度から28年度の論文作成支援数は、27件-24件-36件で、その内、平成29年6月の時点で受理された論文数は、21-17-8編だった。

英語論文作成支援では、単なる英文校正にとどまらず、論文の構成や図表の作成法などをもカバーした包括的な英文校正を提供した。

2. 国際学会参加支援

平成26年度から28年度の国際学会参加支援数は、8件-18件-31件であった。平成27年度までの学会発表支援案件の内、論文作成に至る件数は1件であったため、平成28年度では、支援対象者による学会参加報告会を開催し、研究代表者が研究内容を把握するとともに、積極的に論文作成を促した。その結果、7件が論文作成支援へエントリーされた。一方、平成27年度の国際学会参加支援対象課題の内、論文作成支援にエントリーした件数は4件であった。

3. 英語論文作成レクチャー

原則毎月1回、英文校正会社による英語論文作成レクチャーを開催した。症例報告や臨床研究に関する論文作成法や、剽窃に関するレクチャーも行い、1年間で論文の作成法がマスターできる内容を提供した。

4. 統計解析用PCの導入

初年度に導入した統計解析用PC5台（戸山3台、国府台2台）に関する戸山キャンパスでの使用登録者数は31名であった。次年度では、統計解析のレクチャーも行うことで、一連の研究支援を切れ目無く行うことができるシステムを構築した。

結論：

1. 平成28年度で、本支援システムが所内で周知され、国際学会参加や論文作成支援を受ける件数が増加した。学会参加後、論文作成に至らないケースもあることから、平成28年度では、研究代表者が発表内容を把握し、積極的に論文作成を促すことで、英語論文作成支援を受ける件数が確実に増加した。
2. 本システムは、小規模研究の成果が必ずしも明確な形で得られないという理由で、平成26年度から新たに開始された。3年間の支援によって、12本の筆頭論文と多くの共著論文が輩出された例もあり、本支援がモチベーションの高い若手に対して極めて有効な支援システムであることを示唆する。
3. 本若手支援は、主に「後ろ向きの臨床研究」を支援対象としてきた。平成29年度から、新たなシステムとして「前向き臨床研究」を重点的に支援する試みが始まった。勿論、センターミッションを達成するためには、「前向き臨床研究」支援は大切であるが、特に後期研修医やレジデントに対しては、これまで行ってきた

「後ろ向きの臨床研究」に対する支援も重要であり、継続することが必要であると思われる。

4. 英文校正レクチャーや包括的な英文校正支援を行うことで、早い時期からロジカルフローを意識した臨床研究に習熟させ、さらにその発展系としての「前向き臨床研究」を促して行くフローが継続的に稼働させることが肝要だと思われる。
5. また、英語論文作成レクチャーでは、論文を作成する際のルールに関する内容も取り上げた。そのため、本支援を通して、「後ろ向きの臨床研究」に関する論文を作成する過程であっても、研究倫理を備えた若手研究者の育成が期待できる。
6. 国際学会で発表した仕事を論文化するためのストリームを用意することが必要であるが、発表内容を把握し、論文化を促すには多大な労力が必要である。研究代表者一人で実行することは難しく、センター教育部などがコアとなって進めることが必要であると考えられる。

支援申請書

支援No.			平成 年 月 日
若手支援申請書			
1. 申請者氏名(連絡先)	_____ (_____ @ _____)		
2. 職名 (該当する職名に○)	大学院生、若手医師(レジデント、フェロー、医師、他: _____)		
	若手常勤スタッフ(所属部署: _____)		
3. 所属科長名		4. 科長のアドレス	
5. 希望する支援内容に「○」をお願いします			
a. 英語論文作成支援			
i. 臨床研究支援部門長推薦分(臨床研究プロトコルの英文校正、和文からの英語論文作成)			
ii. 英文ドラフトの作成		_____ これまでの支援回数	
iii. 英文校正: 通常の英文校正(文法やスペルチェック) or 包括的な校正			
・ 論文タイトル:	支援論文数	編	
・ Last author, _____:Corresponding author,	その内受理論文数	編	
iv.掲載登録料金			
b. 国際学会参加支援		これまでの支援履歴	
i. 国際学会への参加(以下、ご記入願います)		有 ・ 無	_____ 年度
学会名: _____			
開催日: _____年 _____月 _____日から _____日間;開催地: _____			
タイトル: _____		過去に支援を受けた課題との異同	
発表形式: <input type="checkbox"/> 演 ・ <input type="checkbox"/> ポスター		同 ・ 異	
※ 医学研究セミナーでの研究紹介: _____ 可 ・ _____ 不可 (「可」の場合は100%、「不可」の場合は50%を限度にカバーする予定です)			
ii. 英語プレゼン用e-learningテキスト			
iii.英語でのプレゼンテーションの練習			
iv. 英文抄録の作成			
6. 確認依頼事項			
a. 申請する課題について(該当する内容に「○」を付して下さい):		臨床研究 ・ 基礎研究	
b. 臨床研究の場合には、倫理委員会からの承認通知書コピーを添付してください。			
c. 臨床研究倫理委員会からの承認通知書を添付できない場合の理由:			
d. 論文が受理された際には、謝辞については、以下の文章を記載願います This work was supported in part by Grants-in-Aid for Research from the National Center for Global Health and Medicine (26A201).		確認後、右に「○」をお願いします。	確認しました。
7. その他希望する支援がありましたら、ご記入下さい。			

課題番号 : 26A201
研究課題名 : Promotion of research and development and its evaluation

主任研究者名 : Yukihiro Ishizaka

分担研究者名 : None

Key Words : Young doctors, research, physician scientists

研究成果 :

A research grant (26A201) supported research activities of young physicians. Out of 27 researches applied for supports for publications, 21 drafts were accepted in 2014. In 2015, out of 24 manuscripts supported for publication, 17 papers were accepted. In 2016, out of 36 manuscripts supported for publication, 8 papers have been accepted on June 30, 2017. In 2016, 36 persons were applied for support of attendance and presentation at international scientific meetings.

During 3 years of supports, one doctor published 12 original papers, suggesting that this support system is very effective for productive young scientists.

Although most of published papers are on retrospective clinical studies, continuous support is important for cherishing research-minded doctors.

若手支援(26A-201)による研究支援

(H26/H27/H28実績)

- ・国際学会参加支援 8 / 18 / 31
- ・英語論文作成支援
 - ・英語論文の英文校正 27 / 24 / 36
 - ・英語論文作成レクチャー
(初級・中級クラス) 10 / 10 / 9
- ・臨床統計解析用PCの導入 使用登録者数:28名
- ・臨床研究者育成部門支援
 - ・臨床研究論文作成支援 1
 - ・臨床研究英文プロコール作成支援 4

研究支援の流れ

柱1. 「後ろ向き」臨床研究

1. 論文化

2. 国際学会参加

→

←

a. 全額支援

医学研究セミナーでの報告



- a. 英語論文作成の勧誘
- b. 所内臨床研究の活性化

柱2. 「前向き」臨床研究

臨床研究者育成部門



〔 論文化
臨床研究英文プロトコール

研究発表及び特許取得報告について

課題番号：26A-201

研究課題名：「研究開発の推進及び評価」に関する研究

主任研究者名：石坂幸人

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
Modulation of long interspersed nuclear element-1 in the mouse hippocampus during maturation.	Ueno M, Okamura T, Mishina M, Ishizaka Y.	Mob. Genet. Elem	6(4):e121198	2016
Morphine and Fentanyl Citrate Induce Retrotransposition of Long Interspersed Element-1.	Okudaira N, Ishizaka Y, Nishio H, Hiroshi Sakagami.	In vivo	30(2):113-8	2016
Imaging of intracellular fatty acids by scanning X-ray fluorescence microscopy.	Shimura M, Shindou H, Szyrwiell L, Tokuoka SM, Hamano F, Matsuyama S, Okamoto M, Matsunaga A, Kita Y, Ishizaka Y, Yamauchi K, Kohmura Y, Lobinski R, Shimizu I, Shimizu T.	FASEB J ,	30(12):4149-4158	2016

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
HIV-1 Vpr induces DNA damage and DNA damage response by changing DNA structure.	Iijima K, Ishizaka Y.	第15回あわじしま感染症・免疫フォーラム	淡路市	2016 9月
The activity of retrotransposition detectable in blood of HIV-1 positive patients has possible link with neurocognitive disorder.	石坂幸人	遺伝研研究会	三島	2016 9月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

研究発表及び特許取得報告について

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
転写調節融合ポリペプチドを用いた細胞ダイレクトリプログラミング方法	2017-036557	国立国際医療研究センター アステラス製薬株式会社 広島大学	2017年2月28日	日本
新規転写調節融合ポリペプチド	AP0656AJ0	国立国際医療研究センター アステラス製薬株式会社 広島大学	2016年12月12日	日本

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。
 ※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。